

---

# 透明

愛珂

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

透明

### 【Nコード】

N6485A

### 【作者名】

愛珂

### 【あらすじ】

どこにでもいそうな、相当面倒くさがりやな女の子と、『透明』な歌声を持つ、ちょっと変わった男の子。そんな二人の、優しくて切ない、恋と、夢の旋律……。

## プロローグ

ねえ、聴こえますか？あたしの、声。

あの日、あなたが私の歌ってくれた、素朴で優しいラブソング。  
あなたの心の中が見えたようで、あたしは胸が熱くなりました。

今でも、いつだって想い出せます。鮮明に。

あなたは、今もどこかで歌い続けているのですか？

その、どこまでも純粹で、どこまでも透き通っている、

『透明』な声で……。

## 1話 出逢い

その日の放課後、あたしはたまたま一人で数学の補習を受けていた。「つしゃ、終わってた〜！」

窓から外を眺める。  
野球部やテニス部が、夕日でオレンジ色に染まった校庭で活動していた。

みんなこんな時間まで良くやるよねえ……。

あたしは帰宅部だから、いつも速攻家に帰ってて、たまぁに友達と遊んだりしてる。

ましてや放課後に運動するなんてことはありえないから。

だからかな？こんな年寄り染みた考え方してんのは。

……ま、それは置いておくとして。

「はあ〜、やっと帰れるしね……。」

あとは、今やったこのプリントを職員室の先生の机の上に提出するだけ。

あたしは荷物を片して職員室を目指し歩き始めた。

職員室は、あたしがいた教室、3・4とは反対側の校舎に位置する。そっちの校舎に行くには、階段を下ったり上ったり……。とにかく、遠い。

なんでも面倒くさがる私にとっては、割ときつい行動である。

「あゝあ。何でこんな学校第一志望にしたんだか……。」

それは簡単なこと。近所だから。

なんて、くだらないことを考えていた、そう、その時だったんだ。あたしはこの先、もう、これ異常ないよ、ってぐらいの、「運命」を感じた。

どこかの教室から、誰かの歌声が、聞こえてきた。

・・・なんて、なんて綺麗な声なんだろう。

泪、止まらないよ。

どこかしらで聞いたことのある様な、純粹で、切ないバラード。

その声は、あたしを感動させるには、充分すぎるくらい・・・

『透明』だったから。

## 2話 再発しちゃった。

あたしは、涙を拭いながら

『その声』のする教室を、覗いてみることにした。

歌声が途切れるのが嫌だったから、教室の後ろの方のドアを、

ほんの少しだけ、開けた。

そこには、一人の男子が居た。

教卓に乗っかって胡坐をかき、目を瞑って、幸せそうに、気持ち良さそうに歌っている。

あたしはその人物に、とても驚いた。

(あれって・・・山下・・・?)

名前と顔は、入学したときから知っている。

山下和也。

顔がめちゃくちゃあたし好みで、1年の頃、いろんな人に聞き込みしたっけ。

何でも面倒くさがるあたしを、ここまで駆り立てたんだから、山下の美貌(?)は、すごい。

でも、そうやって手に入れた情報は、

どれも・・・なんていうか、ちょっと変わったものばかりだった。

当時の、山下と同じクラスの女子は、（中学一緒だった。）

「なんか、めっちゃ無口だよ。挨拶とかしても、シカトされるし。結構ウザいかな。」

男子は、（頑張ってる聞いてみた。）

「あゝあいつねえ……。人の話聞いて、皮肉たつぷりに笑ってるんだよね。友達も、居ないんじゃないかね???てか、なんで???気になってるの?山下のこと。男欲しいだけなら、俺はどう???」

（即シカト。）

当時の、山下の担任の先生。（なにやら良いかんじの女教師。）

「山下?まあ、いわゆる優秀な生徒って感じかしら。清掃当番とかも、男子にしてはきちつとやるし……。でも、良く考えてみると、山下の『声』って、何回かしか聞いたことがないわ。……。と言うより金村?あなた宿題はちゃんとやったの?」

（即逃げ。）

・・・・・・・・・・ほかにも何人かに聞いたけど、どれも似たり寄ったりで。

そんなことばつかり聞いてたから、仲良くなれる気もしなかったし、何か面倒くさくなってきちゃって、山下のこと考えてたのは、ほんの2週間くらいだったかな。

でも今、山下は、この放課後の教室の中で、一人ぼっちで、歌っていて。

あたしは、たまたま聴いてしまって。  
その歌声に、めっちゃ惹かれて。

時間を越えて、あたしの山下への興味は、

再発しちゃったみたい。

### 3話 穴があつたら入りたい。

泪も、だいが落ち着いてきた。

今は、ちよつとわくわくするくらいだよ。

よし、決めた。

この歌が終わつたら、山下に話しかけてみよう。

とりあえず、今はここで、聴いていたい。他には、何もしたくない。

あたしは、補習のプリントを職員室に提出しに行くことなんて、すっかり忘れてた。

まあ、思い出す気もないけどね。

山下の歌に、引き込まれていく。この声が、一番魅力的だ、と思う。

8

歌詞にも、耳を傾けてみる。

(すごく・・・切ない・・・)

旋律もそんな感じ。

山下の透明な声に混ざって、あつという間にあたしの心に染み渡る。それがとっても、心地良いんだよね。

昔の歌かな？そう思った。

あたしは、音楽を聴くのが大好きで。

新しい曲が出て、何か良さそうな感じなら、片っ端から借りちゃう。特にどうでも良さそうな曲でも、一応視聴はする。

どんなジャンルの音楽も、（演歌とか、CMソングとかも。）聞き逃したくないんだ。

ここ4～5年は、そんな生活をしている。

だから、まあ、こう言っちゃあなんだけど、あたしが知らない曲って、殆どないと思う。

なのに、山下が歌っているこの曲。聴いたこと、絶対ないし。でも、やっぱりどこかしらで聴いてそうな感じはして……。

嗚呼、矛盾。

なんか、パン食べ過ぎて、胸焼けした気分。（？）

……とか思ってたなら、終わっちゃったし。

（あつ！！早く訊かなきゃ……！）

焦ったあたしは、教室のドアをすごい勢いで開けて、……なんと外れてしまった。

「うわ、やばっ！」

これまた焦って、何も無いのものに見事に躓いてしまった。しかも頭打った。

（は……恥ずかしすぎ……。）

『穴があつたら入りたい』とか、何か今のあたしの為に作った言葉？ それくらい、このピッタリ度。

ああ〜・・・この後どうしよう？  
流石に、気づかれていないはずがないでしょう。  
もう泣きたいですよ・・・。

「・・・何あんた。バカでしょ？（笑）」

あれえ〜??

何か今、あたしに追い討ちをかける様な言葉が聞こえたような  
しかも、ちよいと低めな声じゃありませんか・・・？

恐る恐る顔を上げてみる。

そこには、あたし好みのあの顔が・・・。

「うあっ！！！」

驚きすぎて、即、後ずさり。あたしって、何か・・・変態？

山下は、まだ笑っている。当然って言えば、その通りだけど。

「ねえ〜、まぢ、何？誰？何でここに居んの？てか、平気？鼻血出  
てるし・・・（笑）」

山下はそう言っただけで笑いながら、あたしに手を差し伸べた。

すぐく馬鹿にされてる。何か悔しい。

でも、同時にこう思う。噂って、当たらずも遠からず。

確かになんか変わってる感じはするけど。皮肉な感じはするけど。  
でも、少なくとも、無口ではない。

かるう〜〜くで良ければ、優しさも・・・あると思う。

「・・・ありがとう。」

あたしは、山下の手をとり、立ち上がった。  
時間にしたら、ほんの一瞬だったと思う。  
でもあたしは、

そのぬくもりを、ずいぶん長い時間感じていた気がした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6485a/>

---

透明

2010年11月25日17時25分発行